# 日々の授業・保育の充実に向けて

## ～　令和２年度学校訪問の総括　～

本資料は，幼稚園６園，小学校２１校，中学校８校，特別支援学校１校において実施いたしました令和２年度の学校訪問（計画訪問，表簿訪問）を総括するものです。

日々の授業・保育の改善・充実に向けて，ご活用ください。

### ― 目の前の子どもの姿から出発する―

### ― 自分の授業を見つめる―

**コーディネート**
― つなげ、広げ、深める―

**発 問**
― 一度で、ズバリ切り込む―

**板 書**
― 要点を押さえ構造的に―

**机間指導**
― 子どもを確かに見る―

**ノート指導**
―思考を深め
学習の定着を図る―

**学級経営**

福島市教育委員会　学校教育課

# 目　　次

☆　確かな学力の育成のために　‥‥ P．1

☆　全国学力・学習状況調査とNRT検査の結果をふまえた取組　‥‥ P．4

☆　授業をつくる　～授業の設計図としての学習指導案～　‥‥ P．5

☆　「家庭学習のスタンダード（福島市版）」で家庭学習の充実を　‥‥ P．6

☆　道徳科授業の充実に向けて　‥‥ P．7
～発問で子どもの思いや考えを深めたい!～

☆　ICT　～まず，使ってみましょう，やってみましょう～　‥‥ P．8

☆　特別支援教育の充実に向けて　‥‥ P．9

☆　「いじめへの早期対応」「不登校児童生徒への支援」　‥‥ P．10

☆　幼稚園訪問を終えて　‥‥ P．11

# 確かな学力の育成のために

「令和２年度　学校教育指導の重点」の**「日々の『授業の充実』による確かな学力の確立」**に示した**「授業５（ファイブ）」**の視点に照らして，今年度参観させていただいた授業について振り返ってみたいと思います。

## １　めあて・課題

「令和２年度　学校教育指導の重点」の４ページには，＜めあて・課題＞について，次のように記載されています。

教師の『教えたいこと』を児童生徒の『学びたいこと』に変える工夫をして，学習課題を設定する。

教師の「教えたい」という思いと児童生徒の「学びたい」という思いが釣り合ったときに，最大限の学習効果が期待できます。「教師の思いが強すぎる」「児童生徒の思いに寄り添っていない」，そのような学習課題になっていませんか。学習課題が授業の良しあしを左右するといっても過言ではありません。学習課題の吟味・検討を常に心がけてほしいと思います。今年度の取組例です。

○　学習課題に関係する写真，動画，アンケート結果などの視覚教材を提示し，児童生徒の興味・関心を高め，課題を提示している。
○　はじめに既有知識を用いれば解決できる問題を提示し，解かせる。次も解決できる問題を提示し，解かせる。そして，既有知識では解決できない問題を提示する。このような手法で学びの意味づけを図り，学習課題を提示している。
△　授業始まりのあいさつ後，「今日の課題は・・・・です。」といきなり学習課題が提示される授業が見られた。学習課題を提示するまでの教師の一工夫がほしいと感じた。

## ２　自力解決

導入段階で，学習への興味・関心を高めても，課題解決の段階で「解決の見通しが持てない」「自力解決できない」となれば，せっかく高まった学習意欲は減退してしまいます。どのようにして自力解決に導くか工夫する必要があります。今年度の学校訪問では，次のような取組が見られました。

○　ヒントカードを複数準備し，個に応じてカードを与える。
○　自立で解決できない児童を教卓の回りに集め，ヒントを与える。
○　机間指導によりつまずいている児童を見取り，解決するための方法や技能について，個に応じて丁寧に指導する。
○　（体育の授業において）示範やビデオ映像，さらには技の分解図などを示すことにより，目標とする動きのイメージを持たせる。

## ３　発表・話し合い

意見や考えを発表させる上で大切なのは，意見や考えをどのようにつなぎ，どのようにして学びを深めていくかということです。教師のコーディネート力が問われます。「令和２年度　学校教育指導の重点」でも，「思考を共有したり，吟味したりするための発問や教師の働きかけを工夫する」とあります。ただ「発表させる」「話し合わせる」だけではなく，その発表内容をもとに児童生徒に問いかけたり，時にはあえて反論してみたりすることが必要です。意見や考えを「つなぐ」ことを，ぜひ意識して指導に当たってほしいと思います。

○　「どうしてそのように考えたのですか」という問い返しや「○○さんの考えのよいところはどこですか」「○○さんの言いたいことがわかる人」など，教師の働きかけが効果的に行われていた。

○　答えや考えの根拠，導き出した方法等を説明できるように問い返す教師の働きかけが多く見られた。

○　友達の考えを言い換えて再度表現させたり，もう一度説明させたりしながら，考えを深めたり確かにしたりする工夫が見られた。

○　農民や外様大名など立場をかえて当時の人々の気持ちや思いに寄り添うことができるように，教師が話合いをコーディネートすることで，社会的事象を多角的に捉えることができた。

○　子供の発言の裏に隠された数学的な見方・考え方を適切に読み取り，発言の中のキーワードについて，その意味を他の子どもに問うなどして的確にコーディネートをしていた。

教師のすばらしい働きかけが見られた一方で，発表や話合いが中心となり，一人ひとりが考える時間が十分に確保されていない授業が散見されました。学びは「個において成立する」ということを心に留め，一人ひとりが学びに向き合う時間を確保してほしいと思います。

また，話合いが活性化するかどうかは，「多様な意見が引き出せる学習課題か」，「深く考えることができる学習課題か」など，学習課題と大いに関連します。その点においても，学習課題を吟味・検討することが必要です。

## ４　まとめ・適用

「学習課題」と「まとめ」の整合性が図られている授業が多く見られましたが，その裏返しの授業も見られました。「学習課題」や「まとめ」については，児童生徒がノートに書き写しますし，そのノートを家庭で見直しますので，きちんと整合性を図る必要があります。「適用」については，学習内容の定着にも関わりますので，授業内に適用の時間を確保することが望まれます。

○　全体でのまとめの前に，「個人のまとめ」の時間を確保してしっかりと書かせ，その記述をもとに全体のまとめを行っていた。

○　教師がキーワード等を提示し，子どもたちはそれらを用いて自ら本時のまとめをしていた。

△　「適用」の時間が十分でないように感じた。「授業内容の確実な定着」という点からも必要不可欠なので，授業内で時間が取れなかった場合には，家庭学習につなぐなどして，授業外のところで時間を確保することが望まれる。

## ５　振り返り

以前は，「授業は楽しかったか」「授業内容がわかったか」などの振り返りが見られましたが，最近は，「授業で何がわかって，何がわかってないのか」のような振り返りになってきているようです。振り返りの方法にも工夫が見られ，振り返りの質が高まってきていることを感じています。今年度参観した授業において，下記のような取組が見られました。

○　教師が振り返りのポイントを具体的に示し振り返らせることで，子どもは本時でわかったことや自分の変容に気づくことができた。
○　振り返りの記述を友達と交換して読み合い，感想を伝え合わせていたが，そのことが結果として新たな気づきにつながった。
○　カードによる振り返りを行い，自分や友達のよさを見つけ，互いに発表させることで成就感を持たせていた。
△　「まとめ」「振り返り」までできない授業があった。「あれも，これも」と詰め込み過ぎずに，授業内容を精選する必要がある。
△　児童数名が感想を述べただけで，本時の振り返りとしている授業が見られた。

ところで，先生方は授業を振り返っていますか。授業の振り返りの場面や授業終了後に，「子どもたちは授業が理解できたか」「学習課題は適切だったか」など，自分の授業を振り返ってください。その積み重ねが，授業の改善，ひいては授業力の向上につながります。

今年度，授業を参観して気づいたことを，授業５に基づいて述べましたが，教育委員会では，指導５（ファイブ），家庭学習５（ファイブ）にも重点を置いています。ぜひ，それらを意識して授業を進めるとともに，次年度から一人一台与えられるＩＣＴ機器を有効に活用してほしいと思います。

指導５（ファイブ）

①　広げ焦点化する効果的な発問
　気づきを促したり，考えを引き出したりできるよう，発問を吟味・精選することが必要です。発問の条件として「わかりやすい」「具体的である」などがあります。確認してください。

②　意図的な机間指導
　「何のために机間指導をするのか」「机間指導で何をするのか」など，机間指導の目的をきちんと押さえることが大切です。「机間散歩」になっていませんか。

③　アウトプット場面の活性化
　アウトプット場面を活性化させる上では，教師のコーディネートは必要不可欠です。児童生徒の考えをつないだり，賞賛したり，ときには揺さぶったり。ぜひ心がけてください。

④　板書の構造化
　「学習課題」や「まとめ」など，事前にカードに書かれていて貼るだけ，という授業が見られました。児童生徒の言葉を用いて板書したいものです。

⑤　ノート指導の徹底
　ノートを見返すことで，学習内容が整理されたり，改めて学習内容を理解したりします。ノートは児童生徒にとっての参考書です。

# 全国学力・学習状況調査とＮＲＴ検査の結果を踏まえた取組

## 1　全国学力・学習状況調査とＮＲＴ標準学力検査の結果

### （１）全国学力・学習状況調査結果

～教科に関する調査の結果（平均正答率）※国語、算数・数学を記載～

| | 小6年生 | | | | | | | | | | | | 中3年生 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 国語A | | | 国語B | | | 算数A | | | 算数B | | | 国語A | | | 国語B | | | 数学A | | | 数学B | | |
| | 福島市 | 福島県 | 全国 | 福島市 | 福島県 | 全国 | 福島市 | 福島県 | 全国 | 福島市 | 福島県 | 全国 | 福島市 | 福島県 | 全国 | 福島市 | 福島県 | 全国 | 福島市 | 福島県 | 全国 | 福島市 | 福島県 | 全国 |
| H27 | 72.4 | 71.0 | 70.0 | 65.2 | 65.3 | 65.4 | 73.8 | 74.3 | 75.2 | 42.3 | 42.4 | 45.0 | 76.4 | 75.2 | 75.8 | 65.5 | 64.5 | 65.8 | 63.6 | 61.2 | 64.4 | 40.8 | 38.1 | 41.6 |
| H28 | 74.3 | 73.3 | 72.9 | 57.1 | 56.6 | 57.8 | 77.2 | 77.2 | 77.6 | 46.9 | 46.2 | 47.2 | 76.8 | 75.5 | 75.6 | 65.6 | 65.0 | 66.5 | 60.5 | 59.0 | 62.2 | 43.8 | 41.2 | 44.1 |
| H29 | 76.8 | 76.1 | 74.8 | 58.1 | 57.0 | 57.5 | 80.9 | 80.5 | 78.6 | 46.7 | 45.1 | 45.9 | 77.9 | 77.6 | 77.4 | 72.6 | 71.9 | 72.2 | 65.3 | 62.8 | 64.6 | 48.0 | 46.8 | 48.1 |
| H30 | 72 | 72 | 70.7 | 56 | 54 | 54.7 | 65 | 64 | 63.5 | 52 | 51 | 51.5 | 76 | 76 | 76.1 | 60 | 61 | 61.2 | 64 | 64 | 66.1 | 45 | 44 | 46.9 |

| | 国語 | | | 算数 | | | 国語 | | | 数学 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 福島市 | 福島県 | 全国 | 福島市 | 福島県 | 全国 | 福島市 | 福島県 | 全国 | 福島市 | 福島県 | 全国 |
| H31(R1) | 63 | 64 | 63.8 | 65 | 65 | 66.6 | 72 | 72 | 72.8 | 59 | 57 | 59.8 |
| R2 | ※　新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業により実施せず | | | | | | | | | | | |

○　全国学力・学習状況調査では，各学年，各教科ともに正答率が全国平均より低い状態にあります。特に，与えられた文章や資料から必要な情報を適切に読み取って整理することや，文と文の意味のつながりを考えながら適切に読むことなどの**「読解力」**に課題があるといえます。

＜児童生徒の**「読解力」**の育成のために＞

文章や情報をしっかりと読み，内容について正しく理解できるような**「読解力」**の育成に向けて，次のような指導を，日常的に全教員で行っていきましょう。

- ○　文節に正しく区切って読む。
- ○　主語・述語などの文の構成を正しく理解する。
- ○　接続語を正しく使用する。
- ○　指示語を正しく理解する。
- ○　定義文を正しく理解する。
- ○　論理的推論を働かせて文を読む。
- ○　文と図や表等を正しく対応させて理解する。

### （２）ＮＲＴ標準学力検査結果の推移

| 国語 | 小学２年時 | 小学４年時 | 小学６年時 | 中学１年時 | 中学３年時 |
|---|---|---|---|---|---|
| 現小学４年生 | 53.4 | | | | |
| 現小学５年生 | 54.6 | | | | |
| 現小学６年生 | 55.6 | 52.7 | | | |
| 現中学１年生 | 55.0 | 53.5 | | | |
| 現中学２年生 | 54.6 | 54.6 | 51.3 | | |
| 現中学３年生 | 54.7 | 54.2 | 53.3 | ※ | |
| 現高校１年生 | 54.7 | 54.3 | 54.5 | 51.9 | |
| 現高校２年生 | 54.2 | 53.3 | 54.2 | 51.8 | ※ |
| 現高校３年生 | | 53.4 | 54.0 | 51.8 | 52.7 |
| 現大学１年生 | | 53.6 | 54.6 | 51.7 | 52.8 |

| 算数・数学 | 小学２年時 | 小学４年時 | 小学６年時 | 中学１年時 | 中学３年時 |
|---|---|---|---|---|---|
| 現小学４年生 | 54.6 | | | | |
| 現小学５年生 | 56.2 | | | | |
| 現小学６年生 | 57.2 | 54.7 | | | |
| 現中学１年生 | 56.6 | 53.7 | | | |
| 現中学２年生 | 56.2 | 55.1 | 52.1 | | |
| 現中学３年生 | 55.8 | 54.3 | 53.7 | ※ | |
| 現高校１年生 | 55.5 | 54.6 | 54.1 | 53.3 | |
| 現高校２年生 | 54.8 | 53.5 | 53.7 | 52.5 | ※ |
| 現高校３年生 | | 53.5 | 53.2 | 52.4 | 53.6 |
| 現大学１年生 | | 53.6 | 53.3 | 52.0 | 53.9 |

※　令和２年度は新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業により実施せず。

○　ＮＲＴ標準学力検査では，各教科ともに中学１年時に低くなる傾向があります。いわゆる**「中１ギャップ」**の学力向上における課題も考慮しながら，授業や家庭学習の進め方などについて**「意図的な移行期間」**を設けるなど，小学校から中学校にかけてのなめらかな接続を目指していく必要があります。

## 2　ふくしま学力調査　児童・生徒質問紙調査の結果から

○　勉強する理由として，「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童・生徒の割合が最も高かったのは，「将来の進学や就職の役に立つから」でした。一方，「勉強することが楽しい，好きだから」について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童・生徒の割合は，学年が上がるにつれて低くなっており，県との比較において，小学校はほぼ同じですが，中学校は３ポイントほど下回っています。

学習をやらされるのではなく，**主体的に進んで学習に取り組む児童・生徒**を育てていく必要があります。

# 授業をつくる～授業の設計図としての学習指導案～

学習指導案は，授業の設計図です。各学校の現職教育等により多様な形式がありますが，押さえておきたいポイントを示しましたので，各校で確認し合いましょう。
（令和元年度福島市指導委員会作成「学習指導案」参照）

＜例＞　第□学年□組　　□□科学習指導案

令和□年□□月□□日（□）□校時
場所：□□□室　授業者：□□□□

1　単元（題材）名
2　単元（題材）の目標
（評価規準）

新学習指導要領
○ ～している★　（知識・技能）
○　（思考・判断・表現）
○　（主体的に学習に取り組む態度）
★子どもが資質・能力を身に付けている状態

3　単元（題材）について
（1）　単元(題材)の特徴（教材観）
本単元（題材）は，□□□□
（2）　子どもの姿(児童観／生徒観)
本学級の子どもたちは，□□
（3）　単元構想・授業構想(指導観)
本単元（題材）の指導にあたっては，□□
本時の指導にあたっては，□□□□

本単元(題材)の構想につながる児童･生徒観や実態把握について記述する。

4　指導計画（総時数□時間）

毎時間，何を学び，何を身に付けるかなど評価規準を含め，学習内容の精選や軽重を検討する。評価規準も明記するのが望ましい。大切な単元構成の部分。

5　本時の指導
(1)　本時のねらい

①（学習内容）～について，
②（手立て）～することにより，～を通して
③（目指す子どもの姿）～することができる。

(2)　指導過程／本時の展開

| | 学習活動・内容 | 時間 | ○指導上の留意点<br>◇手立て　●評価 |
|---|---|---|---|
| 課題設定 | 1　本時の学習課題をとらえる。<br>(1) 前時の～<br>(2) 本時のめあて（課題）を知る。<br>めあて(課題)<br>(3) 課題を解決するための見通しをもつ。 | 5 | ○　～するために，～する。 |
| 課題解決 | 2　課題を～して追究する。<br>(1)<br>・△△△　○○○<br>(2)<br>3　○○について話し合う。<br>(1) 互いの考えを発表し合う。<br>・◇◇◇　○○○<br>(2)　話し合い，本時の課題を解決する。 | | ◇<br>●　～することができる。（発表，ノート） |
| 振り返り | 4　本時のまとめをする。<br>まとめ<br>5　振り返りをする。 | | |

「どうして～なのだろうか」「なぜ～なのか」課題（めあて）の書き方は疑問形とする。
子どもの解決したい！につながっているか？

何のために，どのような「手立て」なのかを書く。留意点ではない。
【発問】「　　」
～するために，～する。

学習内容を必ず書く。「話し合う」「書く」等，学習活動だけの指導案が多いので注意！

【本時のねらい】【めあて】【まとめ】【評価】の整合性を図りましょう！（一貫性があることが大事！）

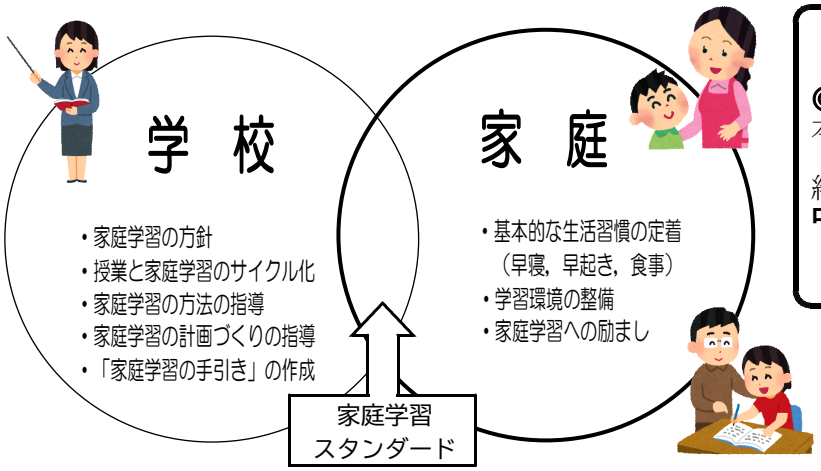
子どもが自分の変容に気付けるような振り返りにしたい。

# 「家庭学習のスタンダード（福島市版）」で家庭学習の充実を

## ■家庭学習5（ファイブ）

1　家庭学習は系統的・計画的な指導により，自らの学びをマネジメントする資質・能力を育むものと共通理解する。
2　家庭学習は学校（中学校区）全体で組織的に指導する。
3　家庭学習は「宿題＋自主学習」である。
4　家庭学習は「量」と「質」を重視する。
5　家庭学習は学校と家庭が連携してこそ効果が上がる。

## ■家庭学習における学校と家庭の役割




目指す子どもの姿

**◎指標**（福島市教育振興基本計画より）
・計画的に家庭学習に取り組んでいる生徒の割合
**中学校３年生５４％以上**[*1]
（全国学力・学習状況調査）

**「自らの学びをマネジメント（管理）する力」**を育成するために，学校と家庭の役割を明確にして協力して取り組むことが重要です。

## ■令和3年度の重点

◎　中学校区における幼・保・小・中学校及び保護者との共通理解による
**「家庭学習の手引き」等の自校化と実践**　＜学校教育指導の重点P20より＞
・計画的な取組　**・授業とのつながりを意識**　・読書の習慣化（家読）

発達段階に応じて，
**「授業とつながる」**計画的な家庭学習の習慣作りを！

◎　緊急時の家庭学習支援を見通し，**定期的に児童生徒一人一台タブレット端末の持ち帰り学習**を実施する。＜学校教育指導の重点P15より＞
・授業参観や学校・学年だより，学校ホームページなどでの活用効果の保護者への周知
・家庭の通信環境に配慮した学習内容の設定

児童生徒一人一台タブレット端末を
家庭学習に活用できる環境づくりを推進しましょう！

家庭学習スタンダード（福島市版）及び家庭学習スタンダード（福島市版）保護者用リーフレットは，白パソのデジタル職員室（授業→資料室）及び福島市ポータルサイトにデータをアップしておりますので，積極的な活用をお願いします。

*1全国学力・学習状況調査による「計画的に家庭学習に取り組んでいる生徒の割合」から，家庭での学習習慣の定着状況をはかる指標（令和７年度目標値）

## 道徳科授業の充実に向けて　～発問で子どもの思いや考えを深めたい！～

道徳科の評価においては，学習指導要領解説に以下のように明記されています。

> 児童(生徒)が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ，自律的に思考する中で，**一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか**といった点を重視することが重要である。
>
> ＜小学校(中学校)学習指導要領解説P110より＞

上記のことを踏まえて，道徳科の授業に，以下の二つの発問を位置付けてみます。

### ○「物事を多面的・多角的に考える」ことができる発問

「物事を多面的・多角的に考えている」姿

- ねらいとする道徳的価値の様々な面を考えている。
- 様々な登場人物の立場で考えている。
- 時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
- 人間の強さや弱さ等を捉えて考えている。　など
- 道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
- 自分の考えと友だちの考えを比べて考えている。

＜令和元年度「道徳の礎（福島県教育委員会）」P8より＞

実際の授業場面から　～切り返しの発問で子どもの考えを深める～

主題名　友だちならどうする【B　友情，信頼】
教材名　絵葉書と切手

①中心発問を吟味する

料金不足のことについて母と兄の考えを聞き，部屋に戻ったひろ子は，一人でどんなことを考えていたのでしょう。

子どもの心を揺さぶる「切り返しの発問」は，子ども一人一人の考えを深めることにつながります。

②中心発問に対する**児童の反応を予想**

- 正子さんに嫌われたくないな。
- 正子さんを傷つけたくないな。
- 正子さん，また同じ間違いをするかもしれないな。
- 正子さんは友達だから，本当のことを教えたいな。

③予想した反応に対する**切り返しの発問**

**正子さん，また誰かに対して同じ間違いをしないかな。**

**せっかくきれいな絵葉書をくれたのに，正子さんは嫌な気持ちにならないかな。**

### ○「道徳的価値を自己との関わりで捉える」ことができる発問

「道徳的価値を自己との関わりで捉えている」姿

- 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考えている。
- 日常生活や学校生活等を想起しながら考えている。
- 自分だったらどうするかなど考えている。　など
- 教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている。
- 自分の生活を見つめ，振り返りながら考えている。

＜令和元年度「道徳の礎（福島県教育委員会）」P8より＞

実際の授業場面から　～教材から離れ，自己を振り返る場を設定し，自分自身を見つめる～

＜今までの自分の体験を振り返る＞
T：今までの自分は，○○（登場人物）のように，友達を信じて助け合っていたかな。
C：廊下を走っている友達を見て危ないなと思ったのですが，注意して嫌われたら･･･

価値によっては，できなかった体験を振り返らせることも効果的です。

＜共通体験から振り返る＞
T：○○さんは，スポーツ集会で友達と助け合ったことを日記に書いていたよね。
C：練習の時，なかなかサーブが決まらなかったのですが，△△さんが･･･

「道徳的実践の場」である特別活動は，共通体験の宝庫です。

# ＩＣＴ～まず，使ってみましょう，やってみましょう～

情報活用能力の育成を図るため，コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用した学習活動の充実が求められています。ふくしまＩＣＴ教育フューチャービジョンにより整備されている指導者用タブレットや児童生徒用タブレット，プロジェクタと電子黒板ユニット等を効果的に活用していきましょう。

**ＳＴＥＰ　１**　すぐにでも，どの教科でも使ってみましょう

**インターネットを使って調べる**

○　「○○について調べよう」だけでなく，教科書の語句などでわからないものがあれば，自分で調べさせてみましょう。

**ドリル学習など個に応じた課題に取り組ませましょう**

○　難易度別やジャンル別など，複数の問題を授業支援アプリ MetaMojiClassRoom で配布しすることで，習熟度や学習のペースに応じて選択できるようにしながら，個に応じた支援をしていきましょう。

**ワープロソフトやプレゼンソフトを利用**

○　自分の考えや調べたことをまとめる道具として活用させましょう。

○　壁新聞は一度に作業できる人数が限られていると思ったことはありませんか？　共同編集の機能を使ってみましょう。

辞書の使い方を理解することも大切です。
ＩＣＴを使う目的を明確にしましょう。

**ＳＴＥＰ　２**　教科の学びを深めるため，教科の学びの本質に迫るための道具として使いましょう

例えば

文部科学省　各教科等の指導におけるＩＣＴの効果的な活用について
令和２年９月　を参考にしましょう

○　国語では…
　文章をワープロソフトで入力し，推敲して文の入れ替えや修正をする。

○　算数・数学では…
　表計算ソフトを使って関数を表にまとめ，表から様々なグラフを作り，関数の特徴をつかむ。

○　社会では…
　様々な情報を分担して調べ，地図にまとめ，地図を重ねて１つにまとめることで情報を読み取る。

○図画工作，美術では…
　ワープロソフトの図形機能を利用して，様々な色の組み合わせを確認する。

○　理科では…
　観察や実験を動画等で記録することで，現象を科学的に分析し，思考を深める。

○　体育（保健体育）や技術・家庭では…
　運動や作業の前に動画を見て確認したり，自分自身の運動や作業の様子を動画で撮影して客観的にとらえる。

○　家庭では…
　家庭での実践を写真や動画に記録して，全体で共有する。

**ＳＴＥＰ　３**　主体的・対話的で深い学びのために授業支援アプリを活用しましょう

**多様な考え方のできる課題を吟味しましょう**

○　授業支援アプリ MetaMojiClassRoom を利用すると，個々の児童生徒の思考過程を共有・比較・分類することが容易にできます。多様な考えが出る課題を吟味しましょう。

**アプリの機能を「活用」しましょう**

○　個々の画面をプロジェクタで拡大して共有することができます。考えを話す方が効果的な場面と，言葉で話すよりも図や式などで表す方が効果的な場面で使い分けましょう。

他にも，ワープロソフトを使って授業または１日の反省を入力したり，学校（学年）だよりを配信したりしながら，児童生徒が日常的にＩＣＴを道具として活用できるようにしていきましょう。

まずは，**使ってみる，やってみる**こと。ポイントは**使うことが目的**にならないように。

# 特別支援教育の充実に向けて

特別支援教育は，障がいのある児童生徒に対して，適切な指導や必要な支援を行うものです。しかしながら一人一人の教育的ニーズを把握した適切な教育的支援は障がいの有無にかかわらず，すべての児童生徒の指導においても必要です。

令和2年度の学校訪問においても，ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業実践が行われていました。

そこで，すべての児童生徒にとって「分かる・できる」授業づくりのためのユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりの参考となる例を紹介します。

## 板書の工夫

- □　構造化された板書にする。
- □　不必要な刺激を取り除き，黒板に注目できる環境を作る。
  - ※　黒板だけでなく，授業中の子どもの視界に入る環境の刺激も削除
- □　チョークの使い方を工夫する。
  - ※　「学年に応じた文字の大きさ」「多くの色を使いすぎない」等

## 机間指導の工夫

- □　机間指導は，つまずいている子どもだけでなく，進んでいる子どもにも言葉かけ等を行い，学習意欲につなげる。
- □　できている過程も評価する。

## 授業の見通しをもたせる工夫

- □　「何を」「どんな順番で」「どのように取り組み」「どこで終わるのか」等，授業の流れを子どもに予告する。
- □　指導は，短時間（集中できる時間）で行う。

## 視覚的に示す工夫

- □　簡単な言葉で目に付きやすい場所に掲示する。
- □　イラストや写真等を活用する。
- □　視聴覚教材を有効に活用する。

## 話し方の工夫

- □　指示は具体的に分かりやすくする。
  - ※　「だいたい～」「ちゃんと～」「あっち」「こっち」ではなく，目的や終点，量や回数を明確にする。
- □　1文1動詞で話をする。
  - ※　「1つ目は〇〇します。2つ目は△△します。」等
- □　前置きをして話す。
  - ※　「これから2つ話をします。1つ目は〇〇です。2つ目は△△です。」等
- □　授業で話す際の「声の大きさ」「抑揚」「速さ」「間」を確認してみる。

## 評価の工夫

- □　できたことはしっかり具体的に評価（ほめる）する。
- □　具体的に指導する（「〇〇すればできるよ。」）。
- □　授業内容が理解できないことを子どものせいにしない。
- □　必要な時は，その場で，短く，具体的に注意する。

（参考：会津教育事務所HP）

---

ユニバーサルデザイン…　アメリカのロナルド・メイス氏が提唱した「調整又は特別な設計を必要とすることなく，最大限可能な範囲で全ての人が使用することのできる製品，環境，計画及びサービスの設計」のこと。

# 「いじめへの早期対応」「不登校児童生徒への支援」

## ＜　不登校児童生徒への支援　＞

各校において児童生徒の心に寄り添った指導，支援をしていただいているところですが，本市の不登校児童生徒数は，依然として高水準で推移しています。不登校児童生徒を出さないということが，最終的な目標ではありますが，その際に「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく，

**不登校児童生徒への支援は，児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて，社会的に自立することを目指すことが大切です。**

そのような視点から，効果的な取組の事例を紹介します。

**○　懇談会の実施，別室登校生徒への組織的な対応**

・年度初めや，夏季・冬季休業中に，欠席日数が多い生徒とその保護者に向けて，学校生活や進路についての見通しをもち，目標に向かって生活できることを目的に懇談会を実施した。

・別室登校の生徒に組織的に対応するため，担当教員を校務分掌に位置づけ，授業時数を軽減したり，他業務を軽減したりすることにより，別室登校生徒への対応ができるよう配慮した。

**○　別室登校生徒に対する個に応じた学習の保障**

・自己選択型時間割表による自己学習スケジュールを作成し，主体的な学習を支援した。

・花壇や野菜畑での体験活動，収穫作業体験，図書コーナーによる読書活動等により，非認知能力を高める学習活動を推進した。

・掲示物等により明るく温かい雰囲気づくりをするとともに，机の配置を工夫(アイランド型等)したり，休憩スペースや個別で学習するスペースを確保したりすることにより，ゆったりと学習に取り組めるようにした。

## ＜　いじめへの対応　＞

いじめの認知件数は年々増加していますが，これは，各校においていじめの早期発見・早期対応を積極的にしていただいている現れであると思われます。しかし，いじめの認定から解決に向けての対応で，保護者の理解が十分に得られず，解決まで長期化する場面が見られます。下記の点について再度確認し，適切な対応をお願いします。

**○　いじめに関する法律等の理解**

最近，保護者が重大事態と訴える事例が増えています。重大事態とはどんな場合か，どのような対応が求められるのか**「いじめ防止対策推進法」「いじめ重大事態の調査に関するガイドライン」等の資料をもとに**，校内研修を通して教員一人一人が理解しておくことが必要です。

**○　丁寧な『保護者対応』がカギ**

いじめと認定したら，「対応の方針」「対応の見通し（いつまでに，だれが，何をするのかなど。)」を被害者・加害者および双方の保護者に明確に説明することが大切です。また，調査の途中においても，経過を随時報告することが大切です。特に，被害者およびその保護者にとっては，今，どういう状況なのかというのがとても気になるところです。

# 幼稚園訪問を終えて

## ＜一人一人を受け止める温かな学級づくり＞

◇　各園が，温かな学級づくりをめざして，教職員の連携を図りながら，一人一人に寄り添った保育をしています。学級づくりがすべての基盤となることを踏まえ，**個々の存在を大切にした保育を学級全体の育ちにつなげる**ことを意識し，学級経営を工夫していきましょう。

　特に，特別な配慮を必要とする幼児が在籍している学級の個と集団の育ちについては，職員間での共通理解を図り，園全体で対応していくことが大切です。

できることにも目を向け頑張っている過程も認めましょう！

### 温かな関係づくりにつながる幼児への意識的な働きかけ

**よさや成長への着目**　認められる喜びややり遂げる達成感を味わうことができるように，個々の特性を生かした環境や援助を工夫していく。

**個と集団のつながり**　幼児が互いのよさや頑張りを認め合う肯定的な関係づくりができる機会を多くもち，**一人一人の存在意義を深める**ことで，**学級の一員であることを意識**できるようにする。

**意識的な言葉かけ**　自分の**言葉や行動を振り返る**ことができるような働きかけをする。

（例：「優しい声で話したから，〇〇さんも分かってくれたんだね。」）

教師の姿勢が他の幼児に大きく影響します。

## ＜幼児の育ちを促す活動の工夫「振り返り・評価」＞

◇　各園で，「活動の選択」「ねらいと手立て」「活動内容の工夫」「振り返り・評価」について，幼児期に必要な経験を段階的に積み重ねることを意識した工夫が見られました。さらに，**発達段階に即した深い学び**となるよう，幼児一人一人の自信や充実感につながる「振り返り・評価」について，そのポイントをご紹介します。

### 振り返りと評価のポイント

ねらいと整合性のある振り返りをしましょう。

＜活動の振り返りのポイント＞

＊　幼児の活動の姿から気付かせたいことや考えさせたいことを取り上げ，その行動を**意味付け**することで，自分達の成長を感じたり，次の課題を捉えたりできるようにする。

例）宝取りゲーム「守っていたのに宝を取られちゃったね。守るだけでいいのかな。」「捕まえる。」「どんな人を捕まえるの？」「宝を取りに来た人。」「守りながら捕まえることもやるってことだね。この次やってみよう。」

＜幼児理解に基づいた評価のポイント＞

＊　幼児の姿から，**自分自身の保育を振り返り，次回の保育の改善を図る。**

- 幼児の興味・関心を捉えた環境の構成や教師のかかわりができているか。
- 一人一人の幼児の発達に必要な経験につながる充実した活動となっているか。
- ねらいを達成するための手立ては，どのように有効だったのか。また，次はどのような手立てでアプローチしていくか。

## ＜幼児が進んで体を動かして遊ぶ意欲を育てる具体的な取組＞

◇　チャレンジタイムなど，「運動遊びプログラム」を計画的・**継続的に取り入れた運動遊びの時間の確保**（毎日の歌やダンス，絵本の読み聞かせと同じく運動遊びの時間を）

◇　チャレンジカードやＢＧＭ，目標物の設定など，進んで取り組みたくなる**視覚的・聴覚的な工夫と活用**

◇　運動する楽しさや成長を実感できる段階的な活動内容の設定と**具体的な称賛や励まし**

# 令和２年度　「日々の授業・保育の充実に向けて」編集者

事務局

| | | |
|---|---|---|
| 福島市教育委員会学校教育課 | 課　　長 | 横山　貴英 |
| | 主　　幹 | 齋藤　雅敏 |
| | 指導係長 | 柏谷　智也 |
| | 主任指導主事 | 菅野　浩智 |
| | 指導主事 | 車田　敦子 |
| | 指導主事 | 遠藤　義武 |
| | 指導主事 | 小林　将路 |
| | 指導主事 | 梅津　隆弘 |
| | 指導主事 | 冨田　宏幸 |
| | 指導主事 | 齋藤　幸紀 |
| | 指導教諭 | 渡部友美子 |

| | | |
|---|---|---|
| 福島市教育委員会教育研修課 | 課　　長 | 丹治　秀樹 |
| | 教育支援係長 | 逸見　健二 |
| | 研修係長 | 小川　尚子 |
| | 指導主事 | 後藤　洋一 |
| | 指導主事 | 酒井　賢司 |
| | 指導主事 | 菅野　紀子 |
| | 指導主事 | 佐々木信晴 |
| | 指導主事 | 甚野美穂子 |

令和２年度　「日々の授業・保育の充実に向けて」

印刷・発行　　令和３年３月
発　行　所　　福島市教育委員会学校教育課
　　〒９６０－８６０１
　　福島市五老内町３番１号

　　福島市教育委員会教育研修課
　　〒９６０－８００１
　　福島市天神町１１番３１号